

## 正誤表

『胃癌取扱い規約 第14版』(2010年3月3日発行第1刷)に訂正すべき箇所がございました。下記のとおり訂正し、お詫び申し上げます。

なお、2010年6月20日発行の第2刷からは訂正されております。

### 記

(注：[ ] は本正誤表におけるコメント)

10 ページ 9 行目

【誤】 T1\* :           【正】 T1 :    [「\*」を削除する]

10 ページ 15 行目 T4a の記述

【誤】 …漿膜表面に接しているか、またはこれを破って…

【正】 …漿膜表面に接しているか、またはこれを破って…

[「表面に……またはこれ」の文字色を黒にする]

12 ページ 下から 11 行目：(1) リンパ節転移の程度 (N)

【誤】 CN(+)           【正】 cN(+)

16 ページ 8～9 行目

【誤】 リンパ節 (LYM), 皮膚 (SKI), 肺 (PUL), 骨髄 (MAR), 骨 (OSS),  
胸膜 (PLE), 脳 (BRA), 髄膜 (MEN), 副腎 (ADR), その他\* (OTH)

【正】 リンパ節 (LYM), 皮膚 (SKI), 肺 (PUL), 骨髄 (MAR), 骨 (OSS),  
胸膜 (PLE), 脳 (BRA), 髄膜 (MEN), 副腎 (ADR), その他\* (OTH)

[文字色を青にする。ただし、「髄膜 (MEN),」と「\*」は黒のまま]

16 ページ 11 行目 「M1のうち、……以下のように記載する。」

【前の行との間を1行空ける】

16 ページ 下から 13 行目

【誤】 H1 :           【正】 H1\* :    [「\*」を挿入]

74 ページ 下から 4～5 行目

【誤】 全ての標的病変の最長径の和を算出し、ベースライン長径の和 (リンパ節は短径) として記録する。ベースライン長径の和は…

【正】 全ての標的病変の最長径 (リンパ節は短径) の和を算出し、ベースラインの径の和として記録する。ベースラインの径の和は…

75 ページ 4 行目

【誤】 …ベースライン長径の和と比較して標的病変の長径の…

【正】 …ベースラインの径の和と比較して標的病変の径の…

75 ページ 7 行目

【誤】 の長径の和と比較して標的病変の長径の和が 20%以上…

【正】 の径の和と比較して標的病変の径の和が 20%以上…

76 ページ 下から 13 行目

【誤】 (7) 胃原発巣の評価

【正】 3. 胃原発巣の治療効果判定方法 [見出しのランクを 2 段階上げる]

76 ページ 下から 4 行目

【誤】 a) 測定可能胃病変 (a 病変)

【正】 1) 測定可能胃病変 (a 病変) [見出しのランクを 2 段階上げる]

77 ページ 1 行目

【誤】 b) 測定困難であるが, 評価…

【正】 2) 測定困難であるが, 評価… [見出しのランクを 2 段階上げる]

77 ページ 7 行目

【誤】 c) びまん浸潤性胃病変 (c 病変)

【正】 3) びまん浸潤性胃病変 (c 病変) [見出しのランクを 2 段階上げる]

77 ページ 下から 1 行目

【誤】 CTCAE ver. 3.0 (日本語版: 日本臨床腫瘍学会, 日本癌治療学会訳) に従う。

【正】 CTCAE ver. 4.0 日本語訳 JCOG 版に従う。

以上

2010 年 6 月 30 日

金原出版株式会社